

# 平成25年7-9月期の四半期別GDP速報の概要

経済社会総合研究所国民経済計算部国民支出課  
弓 智宏

11月14日に公表した平成25年7-9月期四半期別GDP速報(1次速報)では、実質GDP成長率は+0.5%(年率+1.9%)、名目GDP成長率は+0.4%(年率+1.6%)と、ともに4四半期連続のプラスとなった。実質成長率への寄与をみると、外需は3四半期ぶりのマイナスとなった一方、内需は4四半期連続のプラスとなり、また全ての需要項目でプラス寄与となった。以下では今回速報の概要について解説する。詳細は国民経済計算のウェブサイトをご覧いただきたい([http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sokuhou/sokuhou\\_top.html](http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sokuhou/sokuhou_top.html))。

なお、以下の計数は、特段の断りがない限り、実質値の季節調整済前期比、カッコ内は実質GDP成長率への寄与度を示す。

## 1. 民間需要の動向

民間最終消費支出は+0.1%(+0.1%)と、4四半期連続の増加となった。自動車、旅客輸送サービス、身の回り品(ハンドバッグやアクセサリ等)などが増加に寄与したとみられ、金融サービス(証券手数料)などは減少に寄与したとみられる。

民間住宅は+2.7%(+0.1%)と、6四半期連続の増加となった。新設住宅着工戸数の動きを見ると、全国的に前年同期比で増加している。

民間企業設備は+0.2%(+0.0%)と、3四半期連続の増加となった。供給側推計の基礎となる総固定資本形成の動きを見ると、火力発電所の設備更新や自動車等の輸送機械などへの設備投資が増加に寄与したとみられる。

民間在庫品増加(寄与度)は+0.4%とプラス寄与になり、GDP成長率を最も押し上げた。自動車などの製品在庫の増加がプラスに寄与している。他方、流通在庫についてはマイナスに寄与している。なお、仕掛品在庫及び原材料在庫については、1次QEでは基礎統計である法人企業統計が利用できないことから統計的な補外推計を行っており、プラス寄与の推計となっている。

## 2. 公的需要の動向

政府最終消費支出は+0.3%(+0.1%)と、14四半期連続の増加となった。医療費及び介護費(現物社会給付)の増加が傾向的に続いている。

公的固定資本形成は+6.5%(+0.4%)と、7四半期連続の増加となった。公共工事請負金額の動きを見ると、全国的に前年同期比で増加している。

公的在庫品増加(寄与度)は+0.0%と、横ばいであった。

## 3. 輸出入の動向

財貨・サービスの輸出は▲0.6%(▲0.1%)と、3四半期ぶりの減少となった。電子・通信機器や石油製品、鉄鋼製品などの輸出が減少に寄与したとみられる。他方、財貨・サービスの輸入は+2.2%(▲0.4%)と、3四半期連続の増加となった。輸送機械や電子・通信機器などの輸入が増加に寄与したとみられる。

## 4. デフレーターの動向

GDPデフレーター(季節調整済前期比)は▲0.1%と2四半期ぶりの下落となった。内需デフレーターは+0.2%と4四半期連続で上昇したものの、輸入デフレーターの上昇が輸出デフレーターの上昇を上回り、外需デフレーターがGDPデフレーターを押し下げる方向に寄与した。また、GDPデフレーター(前年同期比)は▲0.3%となった。2009年10-12月期以降16四半期連続の下落ではあるが、前期の▲0.5%に比べ下落幅は縮小した。内需デフレーターが+0.5%と、2008年7-9月期以来20四半期ぶりに上昇に転じたことが寄与している。

## 5. GNI(国民総所得)の動向

GNIは季節調整済前期比で実質が+0.0%(年率+0.2%)、名目が+0.1%(年率+0.5%)と、ともに4四半期連続の増加となった。海外からの純所得や交易利得が減少に寄与したものの、GDPの増加がGNIを押し上げた。

なお、平成25年7-9月期2次速報の公表は、12月9日(月)を予定している。

弓 智宏(ゆみともひろ)